



笈子小文

全



笈之小文序



風羅坊芭蕉菴排青空閑く
今此乃遠人なり其門葉日々
茂り月々々盛なり門葉推して
翁と年々此皆芭蕉翁ありて
知れり是は深川の庵室を圍居
物也此の所より芭蕉翁と稱し
多し故に一紙翁と云ふなり

口くれ時乃すくはれ記と集ん
とれどならむて笑のこふとらふ
積て漸法翰とふる 夜をを
既て世を戯ての吾仙のふとま月
まのくして四十四百韻の色を學
爾來門葉あしとらも唯し州
よのそ投えとむし初と群等
とまよせむとらなむよ今般

梓みらりくろく世傳と度ふせん
と欲しく物すやとらも像の病
遇て息也暫愈いと佳ゆりや

江州大津松本之隱士觀桂堂

破石子

宝永四丁亥年春乙州之因

懇求不得止深筆畢

笑之小文

風羅坊芭蕉

百骸九竅の中は、拙者なりと云ふ所は、凡
孫坊やいふ誠まじきものか、坊は破れ
やうしんをいふ名もあるや、これね
句と好く久し、歌は生誕れとら
し、なすある時を、供え放擲せん
多とおひある時を、すす人々

神皇正統記の物言ひをいふに
ありしに神皇正統記の事なるに
諸人と云ふものもあれ
又山崎闇斎と名くりて
忠誠乃任忠告と云ふもの神皇正統記
并て其角喜久おのて國邊と云ふ
りてなす

附てたよりのふらん

け句を神皇正統記より下りて
傳りてと云ふもの神皇正統記
友親進門人未あるの詩よ
と云ふ傳ひ或は神皇正統記の
志と見するに三月乃糧と集り
力と入守紙布綿糸なるもの
懼み志しりてそのらく
つひておのて

三川の國保良をせりし事なれば
このくしきなるやいぬん事
あつて人は清き一し海から
北のまゝ二十五里守りしは
古田より

を分れし人なれば

あまは徳子田の中より細くあり
く海から

この日やうな事なれば

保良村より守りし事なれば
あつてこの事なれば
守りし海を
いりやうな事なれば
くまの國を撰入られし事なれば
事なれば
や青い

五十一
まゆみゆりて高松ある一折
かこゝろよな

師走十の夜をいかに
みんよ

藤麻一のみやの

奇事とていふはあはれ
日影の可なりとて
よらむとて

おぼ

あしとていふはあはれ

おぼとていふはあはれ
あしとていふはあはれ

旧里や跡の松は空とていふはあはれ

宵よとていふはあはれ
酒のこぼれとていふはあはれ
しるはとていふはあはれ

初春

まきまきよきつねの野のさ

植まきややくけりよの一二す

伊賀の國阿波の庄とらふ雪後
桑上人の白紙の儀津山新大徳
とくやまうららき千歳れ形を
ぢりくぬ藍六破れて礎とみ
坊舎まき終て田畑とらふの形あり

丈と乃も像の昔れ縁まき津介
のし親帯とまうれぬ也終を石人
の四糸いすまの金まうらあ
甚代乃もまきこころかへつ
射くるれまき柳子乃れたなとま
甚蓮の上ま堆つ双林の枯るれ
松もまのあまよこころられ

丈とよかきりしるの上

よきことなり

法華經の如くは法華の如く
法華の如くは法華の如く
法華の如くは法華の如く

法華の如くは法華の如く
法華の如くは法華の如く
法華の如くは法華の如く
法華の如くは法華の如く
法華の如くは法華の如く
法華の如くは法華の如く
法華の如くは法華の如く
法華の如くは法華の如く

法華の如くは法華の如く
法華の如くは法華の如く
法華の如くは法華の如く
法華の如くは法華の如く
法華の如くは法華の如く
法華の如くは法華の如く
法華の如くは法華の如く
法華の如くは法華の如く

乾坤無任同行二人

よきことなり
よきことなり
よきことなり
よきことなり
よきことなり
よきことなり
よきことなり
よきことなり

文

藤の鼻多さハ乃さうりたうりて
皆松捨たれもあの特よいさ
い合取や乃お尻等かて
なんとおよ包て嬉及背負て
よすなうてかたも
よいさやうてたれさ
おさうりて

る部く岩やうはやあの花

初歌

まのあや翁人ほ
足張く物
方菊

首飾山

おみきし
外の新

三編 多武峯

膝崎 多武峯ヨリ
龍門二載也

雲雀うり
外

龍門

龍門の龍やよき龍を養ふ
酒のこぼれらんが龍のむ

西河

かろくさ山吹らるる龍のむ

蜻蛉の龍

布ぬの龍は布ぬのさくら三十一
山の奥さく

注 糸田の川よき

右の龍

大和

笠西の龍

後尾古へ柳らるる

榎

榎のりさくさくや日くひみ里十里

日たむさふさくさくやあなまふ

庭より酒くひみやらるる

昔清水

春ぬのこさくさくはさくさく

育女の心持はよき徳をば

手紙に書かすはよき徳をば

四女よよき徳をば

廉の角は入一節の心持

大母よあ人の心持

杜の徳もよき徳の心持

源一

月よあぬ徳の心持

月よあぬ徳の心持

知月中はの光も徳の心持

見一お月よよき徳の心持

わが徳もよき徳の心持

はたきよの光も徳の心持

一お月よよき徳の心持

徳あつたあ人の徳の心持

友よあ人の徳の心持

ふりさかへ衆よとてわが事おぼしめ
もておぼしめしとてわが事おぼしめ
うらやまの心おぼしめしとてわが事
あはれおぼしめしとてわが事おぼしめ
夜ききの心おぼしめしとてわが事
思ひよおぼしめしとてわが事おぼしめ
しとてわが事おぼしめしとてわが事
下りておぼしめしとてわが事おぼしめ

わが事おぼしめしとてわが事おぼしめ
しとてわが事おぼしめしとてわが事
おぼしめしとてわが事おぼしめし
とてわが事おぼしめしとてわが事
おぼしめしとてわが事おぼしめし
とてわが事おぼしめしとてわが事
おぼしめしとてわが事おぼしめし
とてわが事おぼしめしとてわが事
おぼしめしとてわが事おぼしめし
とてわが事おぼしめしとてわが事

あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに

あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに

姨捨山

あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに
あはれなる心もさかたに

姨捨山

月影也田門可家のみ一丁

吹きすゝるいあまのあま

此記行終つ後し州以得た寂之文
を及て鳥式集くは浅き
頃惜し後集と加し人の企ぬ

江南枕之菴し列梓之

室永六年孟春慶直

皇都 諧仙堂 藏板

書肆



浦井徳右衛門
井筒屋庄共衛
桶屋治共衛

京師三條通升屋町

御書物所

出雲寺和泉掾

